

# 小学校でのアルビノザリガニの長期飼育における児童の意識変化について

The change of school children when they breed an albino specimen of Crayfish at school for long-term.

○西村和貴

Kazuki NISHIMURA

津市立新町小学校

Shinmami Elementary School

後藤太一郎

Taichiro GOTO

三重大学 教育学部

Faculty of Education Mie University

あらまし： アルビノとは、色素がないかまたはほとんど合成されない個体のことである。単学級の小学校でそのアルビノザリガニを4年間飼育し児童の意識の変化を見たところ、観察頻度はやや下がっているが、「観察したい、調べたい」という知的な意欲の継続が確認できた。

キーワード アルビノザリガニ, 長期飼育, 意識変化, 小学校

## 1 背景

身近な生き物を継続飼育し、体のつくりや行動を観察したり、発生や成長について考えを持ったりすることは、大切なことである。ところが、津市立栗真小学校の周りは里山を含む田園地帯が広がり、川や水路にはメダカ、手長えびやザリガニ、水生昆虫などが生息する自然豊かな環境がある。そのため、児童にとってアメリカザリガニなどはめずらしい存在ではなく、クラス全員の児童にとって興味を持って飼育できる対象としては難しい。そこで、飼育がやさしく、興味を持って飼育できる動物としてアルビノザリガニに着目し、飼育を行った。

## 2 継続飼育

栗真小学校は、1年生から6年生まで1クラスの学校で、6年間クラス替えがない。そのため長期に渡る継続した取り組みが可能である。今回アルビノザリガニを3年生から6年生まで飼育を行い、その4年間に渡る児童の意識の変化について報告する。

## 3 結果

児童19名に対し3年生の2月(2006年)と6年生の6月(2009年)にアンケートを行いその結果を比較検討する。アンケートの調査項目は、1.観察頻度、2.飼育動物に関する知的関心、3.継続飼育への意欲、の3項目である。1.観察頻度:「アルビノザリガニをどれくらい観察しましたか」と頻度を質問した。3年生の時は、1週間に2~3回以上観察すると答えた児童が90%を越えているのに対して、6年生では、60%程

表1 これからもアルビノザリガニの飼育を教室で続けたいですか(理由)

学年	観察したい 調べたい	愛着がある	成長を見たい	増やしたい	
6年生(2009)	6	5	3	3	
3年生(2003)	かわいい 楽しい	育てる喜び	観察したい 調べたい	愛着がある	めずらしい
	13	4	3	1	1

度であった。2.児童の知的関心:「アルビノザリガニを飼って勉強になったことはなんですか」と質問し、①飼ひ方、②体のつくり、③ふえ方、④成長のしかた、⑤行動のようす、⑥その他の中から選択させ、複数回答を可とした。回答数は総数を始め、すべての項目でほぼ半減している。特に体の作りに関しては、3年生の時より18%と下がっている。これは、アルビノザリガニが透けて体の中が観察しやすかったことと関係がある可能性がある。3.継続飼育への意識:「これからも教室でアルビノザリガニを飼ひ続けたいですか」の問いを行い、その理由を書かせた(表1)。飼育継続の理由に3年生では、「かわいい、楽しい」を上げる児童が多かったが、6年生になると、「観察したい・調べたい」が多く、知的な理由を上げる児童が増えている。

## 4 まとめ

本研究では長期のアルビノザリガニ飼育から児童の意識の変化を見た。4年間継続して飼育すると観察頻度がやや下がってはいるが、「観察したい、調べたい」という知的な意欲が増加していることが確認できた。今後は、赤色のアメリカザリガニを長期に渡り飼育し、比較・検討を行いたい。